漁業経済
学会短信
No. 21
75. 4

第二二回大会案内特集

戦後日本漁業の成長メカニズム

―― 大会によせて ――

戦後日本漁業の発展は、七〇年代に生産力上、資本蓄積上明白な制約を蒙むるようになり、これまでの発展のメカニズム発展の構造の転換が迫られてきている。

本年度の大会シンポジュームにおいて、「漁業成長のメカニズム」をとりあげたゆえんもまさにこゝにあるといえよう。戦後日本漁業の発展を支えた諸条件、構造（発展の諸要因の構成・運動・対抗）とはいかなるものであったか。その発展過程に内臓されていた諸矛盾の展開把握によって、日本漁業の新たな発展・構成の展望を探ることが、現在われわれに課せられた主要な課題である。

本漁業経済学会において、戦後日本漁業の経済構造の把握の試みは昭和四七年の大会でも試みられたところであったが、総体としての把握は充分に達せられたものではなかった。その後の学会においては、むしろ総体としての把握より、日本漁業発展に対する制約・矛盾として公害問題をとりあげたのであるが、そこでは漁業が戦後日本資本主義の高度成長の被害者の立場から問題に取り組まれ、漁業自体が戦後日本資本主義の高度成長の一環として、内的連関をもって発展してきた諸関係の中で――まさに総体として――把握する視点を欠いていた弱点をもつものであった。

また、昨年の大会において、戦後世界経済の構造的変化としての海洋秩序再編成――先進国海洋支配秩序の編成替・海洋の沿岸国による分割――の日本漁業の発展に対する影響・制約の問題を取り上げた。これによって戦後日本漁業の発展のメカニズムがどのような性質であったのかが逆照明されるべきであった。

このような日本漁業の戦後発展に対する制約の諸条件の個別的接近を前提として、いまいちど、その総体としての―戦後世界資本主義および日本資本主義の再生産軌道に日本漁業を位置づけた把握が試みられなければならない時期にいたっているものと考えられる。

▲戦後日本資本主義の再生産構造の一環としての日本漁業の位置づけ（内的連関）

――分析視角――

1. 消費手段生産部門としての漁業生産部門の一般的性格と個別的性格。
（生産手段生産部門と消費手段生産部門の不均等発展の作用。）

A＝漁業用生産諸手段の生産（供給）
―漁業生産力展開の物質的基礎の形成としての生産手段生産部門の展開、特に急速な重化学工業化―
この場合戦前からの重化学工業の再編成ではなく、新たな重化学工業の移植・創設が昭和三〇年代より開始されたとするならば、この重化学工業化による新たな生産諸手段の生産・新たな生産力の形成は、戦後日本漁業の生産力を戦前とは段階を異にしたものとして編成する。即ち、戦前的漁業生産力と戦後的漁業生産力の段階的差異を規定する物質的諸条件の確定。
重化学工業化に対応する漁業生産力形成。（食糧生産部門としての農業部門における生産力展開との差異。生産手段生産部門の高度化に対応して、漁業生産における技術的構成の高度化をはかることができる漁業生産部門の生産条件）
（戦後日本資本主義の段階規定と日本漁業の段階規定の差異と同一性）

B＝消費手段生産部門としての漁業生産部門の資本蓄積
重化学工業化に対応する漁業生産力形成としての資本蓄積。
大漁業資本の蓄積（構造）―資本の投下形態（生産・加工・流通）・労働者の蓄積・存在形態。資本蓄積（利潤率―減価償却）源泉と金融。
△四〇年不況―国債発行、財政による生産力過剰の調整＝設備投資主導の日本資本主義の成長の型の修正。インフレの進行（消費手段としての魚類需要の増大）消費手段生産部門としての漁業部門に対するインフレの効果
インフレと漁業資本の蓄積
即ち、重化学工業化――経済の寡占化――（市場造出的）財政金融政策の一連の関係の中で構造化されるインフレの漁業資本の蓄積に対するメリット・デメリット。（漁業労働力市場の変化―賃金・雇用＝資本賃労働関係の変化）
生産物価値実現
高度資本蓄積＝労働者の蓄積（労働市場拡大↓（漁業労働力流出・賃金上昇圧力・インフレとの絡み合い）――実質賃金上昇）
生産物需要増大――（水産物供給条件＝冷凍・加工・運搬↓流通ネットワーク）実質賃金上昇による食料消費構造の変化＝特に所得階層差拡大における水産物の撰択的消費。水産物価格上昇の全搬的傾向と特定水産物群の一般物価上昇率を上回る価格上昇。
即ち＝実質賃金上昇↓水産物需要の増大との相関と非相関。
相関に対応する生産量増大刺激（漁業資本の蓄積・設備投資への刺激）その一因としての伝統的水産物消費習慣―日本における畜産業の発展の基盤の脆弱さ。また両者に対する消費態度・購入の機会等の差異
特定水産物価格の上昇―撰択的消費（畜産物需要の拡大、大衆魚からブロイラー、豚への消費の移動）―特定水産物群の生産の頭打ち―それらの価格上昇―即ち労働の裏けの無い、従って、価値実体の薄い、奢侈品的性格をもった一群の水産物の形成―そのような価格運動に支えられた漁業所得の増大。↓（沿岸漁家

所得の増大―漁船投資―設備の近代化―養殖漁業の展開〕いわば価格上昇に依存する寄生的性格。そのような性格を生み出す条件が同時に沿岸漁場の汚染を進めることによって、寄生的性格の維持を困難にする矛盾。生産力形成・維持・発展の原点への復帰への社会的要請

特定水産物群の社会における特定階層消費への適合から全階層消費への転換をはかる生産力の形成。―

〔公害反対と市民運動との連繋の一側面〕

即ち戦後日本漁業の展開が戦後日本資本主義の高度成長にどのように組み込まれたものであったのか。そして高度成長といわれる重化学工業化が漁業生産力の新たな形成の物資的基礎をどのように構築し、また水産物実現条件をどのように規定したのか。端的にいえば、われわれはインフレーションと日本漁業との関係をほとんどこれまで取り上げてくることはなかった。そして現在、高度成長から安定成長へと政策転換を余儀なく迫られるような、日本資本主義の成長条件が急速に喪失されようとしているとき、日本漁業の展望を模索するとしても、日本資本主義と漁業との戦後における再生産構造的連関の確定は強く要請されているところであろう。それと同時に戦後日本漁業の発展が、重化学工業化の漁業生産力形成において、具体的には外延的展開の生産力を軸として発展してきたという基本的性格は、七〇年代におけるいわゆる第三世界の資源ナショナリズムの強力な展開――先進国の世界支配を揺がす政治的経済的力をもつ第三世界の世界史への登場――外国企業の国有化を基礎とした新たな海洋分割・海洋秩序再編成の動きによって、その生産力自体の基本的性格の転換が迫られているのである。そしてこの転換は、いわば日本漁業の戦後的秩序、特に許可制度の再編成を要請している。

また、第三世界を新植民地的に支配することによって実現された低廉な石油の上に構築された戦後日本資本主義の重化学工業化、および低廉な石油自身によって形成された漁業生産力の再編成が強制されているのである。

〔高山記〕

第二二回漁業経済学会大会のお知らせ

一、会　場　ホテルかもめ荘
（茨城県市町村職員共済組合直営）
茨城県大洗町祝町
TEL　〇二九二六（六）一一三（代）
（道順）
水戸駅前からバス（茨城交通）で海の子供の国行（四〇分）
海の子供の国下車徒歩三分
（別図参照）

二、日　程

五月二九日（木）
午後六時～八時
全国理事会

五月三〇日（金）
午前九時～
一般報告
総　会
懇親会

五月三一日（土）
午前九時～
シンポジウム

三、シンポジューム

戦後日本漁業の成長メカニズム
座長　倉田亨・八木庸夫

戦後漁業生産力の展開の特徴
大海原　宏

水産物市場条件の変化
広吉　勝治

成長メカニズムと漁業
志村　賢男

四、一般報告

一般報告をなさる方は、報告要旨（四〇〇字詰三枚以内）を五月一〇日までに事務局までお送り下さい。（〆切日厳守のこと）

なお、資料は各自で御用意願います。

五、宿泊申込

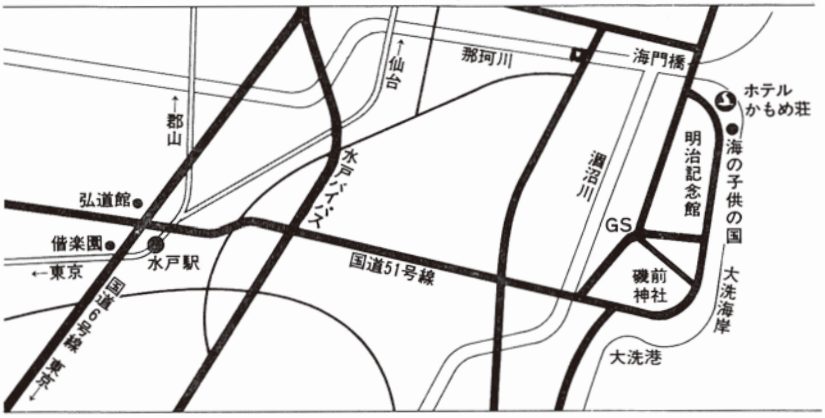
宿泊申込は同封のハガキにて、五月五日までに事務局まで申込下さい。

六、経　費（見積）

宿　泊　三、〇〇〇円
懇親会　二、〇〇〇円

七、大会運営委員

総　務・渉　外　平沢　豊
シンポジューム　長谷川　彰
受　付・会　計　大海原　宏



〝各簿作成に御協力下さい。〟

返信用ハガキは必ず投函を

同封の返信用ハガキは、第二二回大会の参加・宿泊申込とともに、名簿作成のためのものです。大会に出席なさらない方も必要事項を記載のうえ、もれなく御投函下さい。

なお、返信用のハガキが直接、印刷所への原稿となりますので、楷書ではっきりとお書き下さい。名簿作成を大会までに間に合せようと思いますので、五月五日までに必着するようお願いいたします。

◇事務局長より

五〇年度より会費前納制を実施します。当年度前半（大会開催時まで）に納入下さいますようお願い致します。